

翔

百万石蝶談会



NO. 84 JUNE 1990

芭蕉蝶

石川県産のカミキリ2種の記録報告

井村 正行

ヨコヤマトラカミキリ *Epiclytus yokoyamai*

1990年4月19日 石川県金沢市小原 1蛹(エゾエノキ枯枝) 井村正行

※同日夕方1♀羽化

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ *Molorchus nitidus*

1990年4月1日 石川県金沢市寺津 3頭(エゾエノキ枯枝) 井村正行

※1♂材内新成虫、1♂1♀蛹

1990年4月22日 石川県石川郡鳥越村河原山 1♂1♀(エゾエノキ割出) 井村正行

ヨコヤマトラカミキリの記録は本県にはこれまでなく、富山県で1990年4月15日に本種を採集した事から、もしや本県でもと思い、4月16日に金沢市寺津、4月19日に金沢市小原でエゾエノキを調査した。結果は金沢市寺津で採集した枯枝からはヒメヒゲナガカミキリが羽化し、金沢市小原では体色がアメ色になった羽化寸前の蛹1頭を採集し、同日夕方ヨコヤマトラカミキリ1♀が羽化した。ヨコヤマトラが羽化した枯枝は、樹高2m位の小木より採集したもので、頂上部にあり、太さが7mm位のもので、枝先は切り落され、切口より25mm程戻った枝の中心に蛹室が作られていた。蛹室より下の部分の枝は、まだ生きていた。ヨコヤマトラは羽化後一週間程で本来の成虫の色になった。

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリは、これまで金沢市小原で採集されていたが、新たに上記2カ所で採集したので、追加報告をしておく。カミキリのいたエゾエノキの枯枝は、直径10mm位で、残念ながら個体数は大変少なかった。4月22日の調査は、野中、松井、中西、上田の各氏と共に行ったもので、羽化脱出寸前のものであった。

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

アカマダラコガネの採集についての報告

上田 昇

久しぶりに子供と一緒に近くの下涌波へ行き、ウスバシロチョウ、ミヤマカラスアゲハ、コムスジ、サトキマダラヒカゲなど数頭を採集し、上涌波の林道ではハンミョウなどを採集した。その折に下涌波の河原の縁にボツンとある柳の木を見ると、いたるところから樹液がでていて、オサムシ、クワガタと共にアカマダラコガネを採集した。県内に於ける同コガネの正式な記録は無いと思われる。

本報告に当たり、ご助言を頂いた野中 勝氏に感謝いたします。

アカマダラコガネ 1990年5月13日 金沢市下涌波 1頭 上田 昇

《うえだ のぼる 〒920-01 金沢市百坂町イ27-9》

富山県産のカミキリ2種の記録報告

井 村 正 行

ヨコヤマトラカミキリ *Epiclytus yokoyamai*

1990年4月15日 富山県婦負郡山田村鍋谷 1 蛹(エゾエノキ枯枝) 井村正行

※1990年4月16日朝1♂羽化

ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ *Molorchus nitidus*

1990年1月15日 富山県婦負郡山田村鍋谷 数蛹(エゾエノキ枯枝) 井村正行

※1990年4月上旬20数頭羽化

1990年4月15日 富山県婦負郡山田村鍋谷 20数頭(エゾエノキ割出)井村正行

この地にはエゾエノキの大木が多数あり、ホソツヤヒゲナガコバネの食害枝は多数見られ、中でも細い枯枝(直径5~20mm)は高率で食害されていた。1月15日はヒサマツミドリシジミの調査に訪れた時に、もしやと思いエゾエノキを採集してきたもので、4月15日は再調査に訪れたものである。4月15日は、家族づれと小雨という悪条件で、調査した木は2本だけだったが、ホソツヤヒゲナガコバネの食痕は多数見られ、真新しい脱出口も多く見られた。ひょっとすると暖冬のせいで羽化脱出が早まったのかも知れない? それでも数本の枝より20数頭の新成虫を割り出すことができた。この時、1本の枯枝より羽化寸前(体色がアメ色に変っていた)のヨコヤマトラカミキリの蛹を発見して持ち帰ったところ、翌朝1♂が羽化した。

《いむら まさゆき 〒920⁰¹ 金沢市湊2-116-70》

スギノアカネトラカミキリの訪花例

野 中 勝

スギノアカネトラカミキリ(*Anaglyptus subfasciatus*)は、夕刻コゴメウツギの花に集まると月刊むし133号に紹介されているが、筆者は下記の様な訪花例を観察しているので報告しておく。

- 1) サワフタギ 金沢市坪野 1989年6月1日正午頃 3♂♂1♀
スギ植林地に隣接した、半日陰の2本のサワフタギに訪花していた。
- 2) クリ 金沢市坪野 1989年6月13日正午頃 1♀
スギ植林地に隣接するススキの斜面に生えた、極めて日当たりの良いクリの花より得た。なお、両日とも晴天であった。

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

富山県に於けるヒサマツミドリシジミの分布調査 (その3)

井村正行・田中秀夫・野中 勝・松井正人

過去2回の報告^{1) 2)}で、富山県では小矢部川を除く全ての主要な河川にヒサマツミドリシジミが分布することを報告した。今回は残る小矢部川を中心とした庄川以西の調査結果を報告する。当然の事ながら、調査はすべてウラジロガシで行なった。

1) 平村祖山 庄川本流(標高220m)

前日に降った雪で山は真っ白であったが、川面近くの木々には雪は無く、庄川本流に沿ってウラジロガシを捜したところ、祖山までは連続して見られたウラジロガシも、祖山ダムをすぎるとそれこそ水没してしまったかのように見られなくなった。4人で2時間調査した結果がわずかに3卵で、ウラジロガシの分布から見ても、祖山が庄川の最上流のヒサマツ分布地と思われる。

❖ 1990年 1月15日 ヒサマツミドリシジミ 3卵 全員で調査

2) 井波市不動滝 小矢部川支流大谷川(標高280m)

井波の市街地より眺めると不動滝方面は全山スギ林のようであるが、滝に近づくと地形は急峻で、スギの植えられない所にはウラジロガシが残されている。スギ林に囲まれた環境はヒサマツにとっては厳しいらしく、2回の調査でわずかに1卵しか発見されなかった。

❖ 1989年12月17日 発見に到らず 野中 勝調査

❖ 1990年 2月17日 ヒサマツミドリシジミ 1卵 松井正人調査

3) 井口村東西原 小矢部川支流赤祖父川(標高380m)

井波市不動滝の環境を更に厳しくしたような所であり、ウラジロガシも数える程しか残されていない。最も多く見られる斜面で調査したが、ヒサマツは発見できなかった。

❖ 1990年 3月 1日 アイノミドリシジミ 2卵 松井正人調査

4) 福光町臼中 小矢部川支流打尾川(標高240m)

打尾川には散発的に少数のウラジロガシが見られるだけだった。高さ5m程の小木を1本調査したがヒサマツは発見できなかった。

❖ 1989年12月17日 野中 勝調査

5) 福光町刀利ダム 小矢部川本流(標高320m)

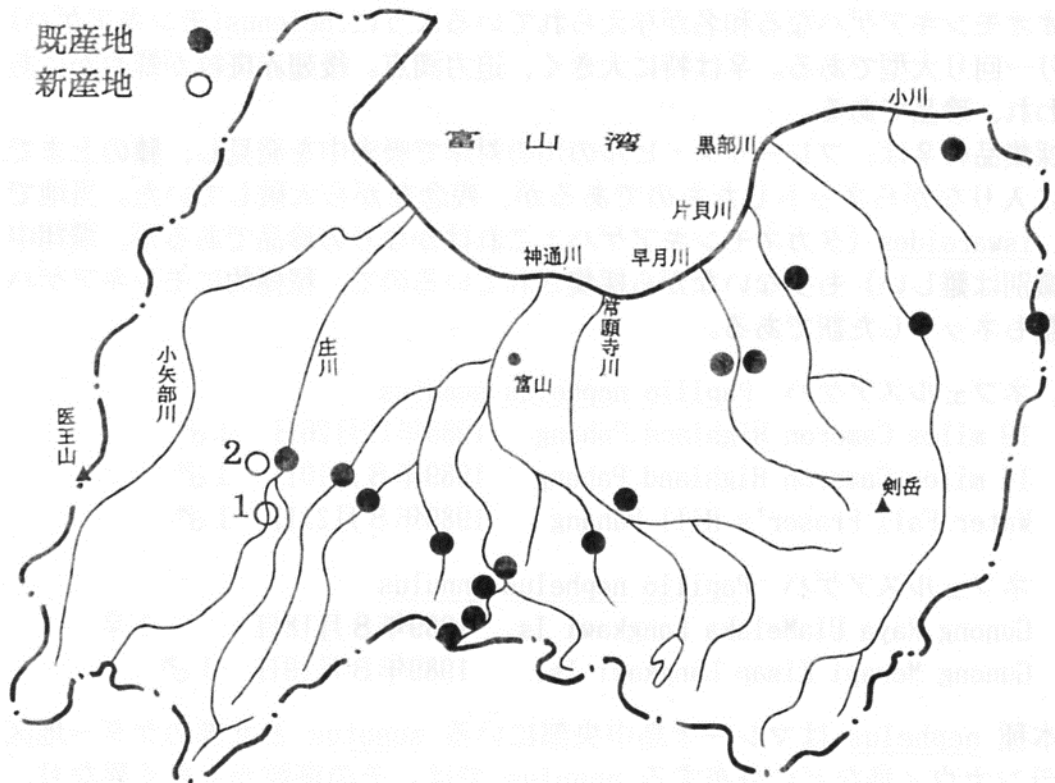
小矢部川はウラジロガシがほとんど見られず、福光温泉付近と刀利ダム付近にわずかに見られるのみで、刀利ダム付近の道路沿いとダム直下を調査した。ダム直下は発電所より河原を行き、ダムの真下のウラジロガシを調べた。しかし、いずれもヒサマツは発見できなかった。

✧ 1989年10月28日 松井正人調査

✧ 1989年12月17日 松井正人調査

庄川以西はウラジロガシの密度が以東のそれに比べると明らかに低く、以東では何処を調査しようか迷うところであるが、以西においては調査地そのものを捜し出すのに時間を費やしてしまった。今回5ヵ所の調査報告を行ったが、調査に至らなかった調査行(小矢部川支流山田川、二ッ屋川)もあった事をつけ加えておく。

《 ヒサマツミドリシジミの産地 》



1) 井村正行・他5名(1989) 翔 81:1~2

2) 中西重雄・他3名(1990) 翔 82:1~2

《いむら まさゆき 〒920⁰¹ 金沢市湊2-116-70》

《たなか ひでお 〒920⁰¹ 金沢市大場町東145》

《のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20》

《まつい まさと 〒920⁰¹ 金沢市大場町東871-15》

マレーシアの蝶についての報告(Ⅲ):アゲハチョウ科(その2)

指 田 春 喜

先に筆者は、本紙(翔 NO.83,6.IV.1990)に「マレーシアの蝶についての報告(Ⅱ)アゲハチョウ科(その1)」を報告し、その中で、筆者が採集・観察したアゲハチョウ科10種の解説をした。今回はそれに引き続いて、残りのアゲハチョウ科14種について報告する。

11. イスワラアゲハ Papilio iswara iswara

Forest Park Teluk Bahang Penang Is. 1988年12月30日 3♂2♀

Water Fall Fraser's Hill Pahang 1989年8月21日 1♀

オオモンキアゲハなる和名が与えられているように、helenus(モンキアゲハ)より一回り大型である。♀は特に大きく、迫力満点。後翅赤斑紋が鮮やかにあらわれ、珍品である。

採集品の♀は、フレーザス・ヒルの川の対岸で吸蜜中を発見し、膝の上まで水に入りながらネットしたものであるが、残念ながら大破していた。当地では、iswaraides(タカネモンキアゲハ:これはかなりの珍品であるが、飛翔中の識別は難しい)も少ないながら採集されているので、積極的にモンキアゲハの類もネットした訳である。

12. ネフェルスアゲハ Papilio nephelus sunutus

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月26日 1♂

14 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月10日 1♂

Water Fall Fraser's Hill Pahang 1989年8月21日 1♂

ネフェルスアゲハ Papilio nephelus annulus

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年8月18日 1♀

Gunong Merapi Kisap Langkawi Is. 1989年8月19日 1♂

本種 nephelus はマレー半島中央部にいる sunutus と北部のケダー地区やランカウィ島などに分布する annulus では、その斑紋が大きく異なり、一見すると別種の様である。前者にはシロオビモンキアゲハなる和名があり、この前翅の白帯は飛翔中でははっきりと認識できる。別亜種 chaonulus は台湾モンキアゲハの名で知られる。

13. デモレウスアゲハ Papilio demoleus malayanus

Forest Park Teluk Bahang Penang Is. 1988年12月30日 1♀

オナシアゲハの和名で知られ、フィリピン・台湾などから飛来し、時々八重山でも発生するのは、別亜種 libanius である。全部で6亜種が知られるが、ともに変異に乏しい。

14. パリヌルスアゲハ Papilio palinurus palinurus

Cameron Highland Pahang(from dealer) 1989年8月 2♂

オビクジャクアゲハの和名が知られるが、キャメロン・ハイランドなどでは少ないらしい。北部ケダー・ランカウィ島などに多く見られるらしいが、筆者の2回の採集では目撃すらできなかった。

15. ポリテスアゲハ Papilio polytes momulus

Forest Park Teluk Bahang Penang Is. 1988年12月30日 1♀

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 1♂1♀

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月13日 1♂

シロオビアゲハの和名で知られ、日本の南西諸島には polycles が分布するほか、全部で17亜種に整理されている。マレー半島には romulus が分布し、最普通種のアゲハチョウである。

♂はその和名が示す通り、前翅表面外縁から後翅にかけて白帯が走る型だけであるが、♀は♂型の型(♀の白帯の方が太い)の他、ベニモンアゲハに擬態する pammon型(ミミック型)がある。また台湾には第3の型として、♂後翅表面の白帯が茶色になる褐色型も知られる。

筆者の採集品の比較でも、分布の北限となる polycles や台湾亜種 pasikrates に比べ、本亜種 romulus は一般に小型となり、白帯は逆に太くなるなどにより、前2亜種とは明確に区別できる。

16. メムノンアゲハ Papilio memnon agenor

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月28日 1♂

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 1♂

和名ナガサキアゲハであり、もちろん我が国で最初に記録された長崎県にその名が由来するものである。しかし、本種 memnon は分布の中心が東南アジアにあり、その北端にやっと亜種 thunbergii (生物学者シーボルトの命名)がひっかかっているという程度の現実を前にすると、本種を『ナガサキアゲハ』と呼ぶことが、何とも無意味に思えてくる。

♂は変化に乏しく、♀は無尾型・有尾型の他、多様な変化を示す。

17. カギバアゲハ Meandrusa payeni ciminius

Fraser's Hill Pahang(from 雲 昌鳳) 1989年1月 3♂

その特異な翅形によりカギバアゲハの和名がある。テングアゲハに続き、最近キャメロン・ハイランド産 ciminius の幼生期が、五十嵐氏により解明された。(蝶と蛾、1989, 40, 93)

標本商には在庫があり、珍種という程でもないが、簡単に我々が採集できる種でもないらしい。

18. サルペドンタイマイ Graphium sarpedon sarpedon

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年8月19日 1♂

和名アオスジアゲハで親しまれ、日本には nipponus がいるが、その分布の中心を熱帯アジアにする最普通種のひとつである。18の亜種に分けられているが、亜種間にそれ程の相違がある訳ではなく、それらの同定は難しい。

19. ドソンタイマイ Graphium doson evemonides

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1988年12月31日 1♂

和名ミカドアゲハであり、これは分布の北限である日本の亜種 mikado に由来する。マレー半島には近似種エベモンタイマイ (G.evemon)、エウリピルスタイマイ (G.eurypylus) が分布し、これら3種の野外での区別は難しい。

20. バティクレスタイマイ Graphium bathycles bathycloides

Fraser's Hill Pahang 1989年8月20日 1♂

Fraser's Hill 山麓部 Pahang 1989年8月22日 1♂

本種もミカドアゲハの類に似るが、後翅裏面の斑紋により前記3種とは明確に区別できる。しかしながら、インドから中国にかけて分布する G.chiron (マレー半島に分布) とは酷似するらしいが、これについては筆者の力量を越えており、敢えて言及を避けたい。(はやい話が、G.chiron が塚田図鑑に図示されていない)

21. アゲテスタイマイ Graphium agetes iponus

Fraser's Hill 山麓部 Pahang 1989年8月22日 1♂

2回のマレーシア行に際して、下調べを行っていたので本種の存在は知っていたが、仲々採集できず、吸水中をネットした時は普通種であるが嬉しかった。やはり、普通種でも日本国内に産する蝶とその形態が大きく異なる蝶は新鮮なのである。

♀は大珍品。5亜種に分けられるが、亜種間に大きな相違はない由。

22. アンティファテスタイマイ Graphium antiphates itamputi

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 2♂

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月13日 1♂

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年8月19日 1♂

オナガタイマイの和名で知られるように、前種と並び尾状突起が長く、軽やかに高所を飛翔し、その時はシロチョウ類のように見える。♂は強い吸水性を示し、その折の裏面は白地に黄色、橙、黒の色彩が美しい。

マレー半島では、平地から山地にかけて普通に産し、前種よりその数は多い。

23. マカレウスタイマイ *Graphium macareus perakensis*

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1988年12月31日 4♂

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 6♂

マレー半島・ランカウィ島には *parakensis* が分布し、熱帯アジアには全部で11亜種が知られる。平地の蝶であり、吸水性が強い。年末から年始にかけての最初のマレーシア行きでは、ランカウィ島で比較的多くその数が見られたが、2回目には同一地域でも本種は全く見られなかった。年1回の短期型発生らしい。

24. メゲススソビキアゲハ *Lamproptera meges virescens*

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月26日 2♂

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月28日 1♂

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月13日 1♂

スソビキアゲハとは、まさにぴったりの名である。透明な前翅を小刻みに震わせながら吸水する姿や吸蜜中のところを観察したが、最初に接した時は、これがアゲハチョウにはとても見えなかった。

東南アジアには広く6亜種が産し、他に近似種 *L. curius* がいる。



ネフェルスアゲハ (sunotus亜種)

イスラアゲハ

サルベドンタイマイ

メノンアゲハ

ネフェルスアゲハ (annulus亜種)

デモレウスアゲハ

ポリテスアゲハ

ドソソタイマイ

パティクレスタイマイ

パリスルスアゲハ

マカレウスタイマイ

アゲステスタイマイ

アンティファテスタイマイ

メゲススソビキアゲハ

カギバアゲハ

以上、2回のマレーシア採集行で採集・観察できたアゲハチョウ科24種の報告とその解説を2回に分けて行った。

筆者は昨夏、マレーシアのフレーザス・ヒルにてスペインの2人の昆虫愛好家と出会い、その後、蝶の交換を始めている。お互いの共通言語は英語であり、先方の語学力も私以上ではない(これ、ホント!)ので、詳細な点では意志の疎通が充分ではないかも知れない。しかしながら、大まかなところでは問題ない。

これまでに私の方からは、主に金沢市近郊で採集したギフチョウ、ウスバシロチョウ、カラスアゲハ、モンキアゲハ、アイノミドリシジミなどを送り、スペインからはパルナシウス、チャイロフタオ(*Charaxes jasius*)、モンキチョウ(*Colias croceus*)など13種、約30頭が送られてきた。今後、私の方からはスペイン産のベニヒカゲ、タカネヒカゲなどを求めていくつもりであるが、何分にも当方には手持ちの三角紙標本が少ない。私は採集した蝶を三角紙のまま死蔵してしまうことや、カツオブシムシなどに食わした後、自然に帰すようなことをしない主義なのである。い



のしるし
日本産蝶類などの
余剰品

で油の出た沖縄産や、ヒメシロチョウ、ヤマトシジミクラスの軟化展翅の最も難しいアメリカ産の小型種をゴッソリ、他人に展翅を依頼するなどしたことはない。ウィッ!

そこで、広く会員の皆様にご協力をお願いする次第であります。普通種で結構ですから、余剰品(三角紙)の蝶をお持ちの方はぜひ当方までご一報下さい。また、先方の興味の対象は蝶だけではなく、蛾(ヤママユガ: *Saturniidae*)も求めてきていますので、これもよろしく。

なお、見返りにあまり凄いのを求められても当方としても困りますので、念のため。誠にムシの良いお願いで、ゴメンナサイ!!

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

会員の動き・しゃばの動き

■3月25日指田氏、福井は杣山へ。前日までの陽気はどこへやら、寒くて、寒くて。それでも採集者だけは数がそろっていた。

■石川の自然シリーズ第2段出版さる。前年の「ブナ林」に続き、今回は「野鳥」。野鳥の会石川県支部の力作で、写真は全て会員により県内で撮影されたもの。さて次回は昆虫か？

■4月1日松井、上田、野中の3氏、連れだってイボタ狙い。イボタで満腹した後は、エノキ、カエデ、スイカズラに挑戦していた。

■4月2日指田氏、再び福井の杣山へ。20頭程採集したが、杣山タイプはいなかった。

■今年の平栗はすごかった。いつ出かけても県外ナンバーが止まっている。この時期県外ナンバーとくればギフ以外に考えられない。それにしても奈良ナンバーの女性達は魅力的だった。特に網を持つ手が！

■オオムラサキ全滅か!? 越冬幼虫を2階の窓から袋がけしていた野中氏、これは便利と強調していたが、強風にあおられた幼虫は、カラカラに干乾び、全滅寸前。

■4月15日再びM、U、Nの3氏、雨が降るのに内川方面へ。狙いはエゾエノキの某種だったが発見できず。帰路、大平沢でギフを採卵。

■松井氏、3月になると「まだ出ない。まだ出ない」とギフを待ち焦がれているが、ひとたび飛んじやうと、「することがない。何をしようか。」などと、思案に暮れている。

■パンパカパーン今週のハイライト！15日井村氏、富山県は山田村でホソツヤを観察中にヨコヤマトラを発見。16日、前日の興奮覚めやらぬ井村氏、県内の記録をださんと犀川ダムへ出かけ、何やらそれらしき蛹を発見。19日、されば内川ダムはいかにと出かければ、ここでもあっさり確認。

てな訳で、ヨコヤマをノックアウトしてしまった1週間だった。

■4月22日ヨコヤマトラ大調査団、白山方面に行く。井村会長率いる総勢5名によって、河内村、鳥越村、尾口村、吉野谷村が調査された。結果はないしょ。おそらくボツ。

■4月22日白峰村某地に次々と現れし3氏、その名を嵯峨井、松田、指田と言う。いずれもギフ狙いであったが、完全にボツっていた。

■夏型のスギタニルリを君は知っているか？ 春1化のスギタニは、夏は暑くて出て来れないが、野中氏は前翅の風通しを良くすることで夏型を羽化させた。風穴は左右対称に開けるのがコツらしい。

■4月29日中西、野中、上田の3氏、雨の中を森本、津幡方面でオサトラの設置。ついでにミドリシジミ、オオヒカゲを採卵。

■4月30日中宮温泉テンプラ大会。午前中にありったけの山菜を採り、これを肴に会員相互の親睦を計った。天候にも恵まれ31人の親子が参加。

■5月3日野中、上田の2氏、各種幼虫を搜して、医王山へ。ウラゴマ、メスアカ、ウラクロ等の成果あり。

■上田氏ののめりこみは、そろもう大変。朝は3時から起きて、生態図鑑を片っぱしから読破し、6本足と見ると何でも採っている。

■5月4日野中、上田の2氏、雨の中をオサトラの見回り。

■ガン研の女医さん、いろいろな幼虫を飼っている。中でもクスサンの幼虫にはぞっこんとかで、毎日ブラッシングしているとかいないとか。

■松井氏の庭は自然度満点。木々には色とりどりの幼虫があふれ、辺りには色んな羽音の虫が飛んでいる。かと思えば、せっせとアゲハの肉団子を作るハチの飛行部隊や、キベリタテハの幼虫群を一晩で全滅させたアリの軍団もいる。そして最近オオムラサキの幼虫を巧妙にからめとるクモも発見された。

■5月6日密命を帯びて輪島へ向いし者2名あり。高洲山レーダーサイト付近でブナやトチを観察していたが何をしていただろうか。

■5月20日釈迦林道入口のゲートが閉まっていた。今後はどうなるのか。

例 会 の 記 録

4月6日8時より城南管工2Fにて開催。2月例会に引き続き、「翔」販売の是非について話し合い、今回も販売の線で合意した。その後それといった盛り上がりもみせず、11時には散会となった。

2月例会が記録的な少人数だった為、今回は開催の案内を行ったところ、参加者は12名に復活。中田、澤田、松田、野中、指田、山岸、松井、近藤、高野、井村、勝海、中西夫人。ただし、新婚早々の勝海氏は、TEL参加。

目 次

井村正行：石川県産のカミキリ2種の記録報告	1
上田 昇：アカマダラコガネの採集についての報告	1
井村正行：富山県産のカミキリ2種の記録報告	2
野中 勝：スギノアカネトラカミキリの訪花例	2
井村正行・他3名：富山県に於けるヒメマツドシタの分布調査（その3）	3
指田春喜：マレーシアの蝶についての報告（Ⅲ）：アゲハチョウ科（その2）	5
指田春喜：求む！ 日本産蝶類などの余剰品	9
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10
編集部：例 会 の 記 録	11

とぶ NO.84

1990年6月8日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方

百万石蝶談会

☎ 0762-58-2727

振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所